2023 年 4 月
大橋直紀

ロータリー月例報告書 vol.10

留学先：レッジョエミリア音楽院（イタリア）

四月を迎え、北イタリアでは春の陽気を感じることが増え、少し早いですが日中は半袖で街を出歩く人も見かけるようになってきました。六月七月への試験へ向けて今年度のレッスンも少しずつ終わりが見えてきており、自身がどこまで取り組めるかと意識をする時期に入っています。

さて、四月は歌曲の授業の発表会がありました。曲目としては二重唱から四重唱の全てアンサンブルで構成された演奏会で、在籍している声楽を専攻する学生のうち九割近くが参加していました。ブラームスのピアノ連弾による伴奏の四重唱や、メンデルスゾーンの季節を表現した歌曲集からの抜粋など、日本ではあまり聞き馴染みのないものが多かった印象ですが、どれも素敵で本番聞くのを心待ちにしていました。

歌曲の演奏会にて、教授と学生たち、ピアニストたちと

私は今回デュエットを二曲、また四重唱を二曲の計四曲を歌いましたが、オペラアリアを一人で歌うのと違い、他の学生と音楽について話し合いながら作っていく過程にとてもワクワクして取り組んでいました。こういった機会を通して他の学生との交流の機会も増え、日常において話せる子が増えたという意味でも、私にとってとても有意義な授業、そして発表会であったように思います。

また、今月上旬にはペルゴレージのスターバト・マーテルの演奏会を聞きに行きました。カトリック教会において十三世紀に作詞された「スターバト・マーテル」という詩には、六百人以上の作曲家が曲をつけたと言われ、ペルゴレージの作品はその中でも最も知られた声楽作品の一つとされます。改作作品の中には、バッハがドイツ語の歌詞をつけたカンタータとして有名なものもあり、ソプラノ・アルトと弦楽器（今回はパイプオルガン）の編成による美しい響きが特徴の作品です。

スターバト・マーテルの演奏会にて

今回は設置されているパイプオルガンの横で教会の二階からの演奏でしたが、大きな教会ではなかったもののよく響き、透き通るような美しい音の鳴りで心が休まる素敵な時間を過ごせたように感じます。やはり宗教音楽にもこうして触れる機会があるため、自身としても演奏機会を見据え、教会音楽などについても学びを深めたいと気持ちを新たにしています。

続いてこの場でのご報告となり恐縮ですが、私大橋が滞在許可証の申請において問題が起こり、急遽四月下旬より日本に帰国しております。在東京イタリア大使館にてビザの再取得が必要となり、それに合わせ日本へ一ヶ月ほどの滞在を予定しておりましたが、非常に残念なことにその手続きもうまくいかず、

いつ再入国ができるかわからなくなっています。イタリアの学校との連絡を続けてはいますが、まだ目処が一切立たない状況のため、改めて再渡航の目処が立った際に報告をさせていただければと思います。

六月七月の試験に向けて授業も佳境を迎える中での帰国であったため、少し焦る気持ちもありますが、十ヶ月ぶりの日本滞在で色々な方の顔を見られることに対して嬉しさも少し感じます。焦らずに今いる場所でできることに取り組もうと考えています。

末筆となりますが、日頃から沢山のご支援をいただきありがとうございます。今後とも皆様からのご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。